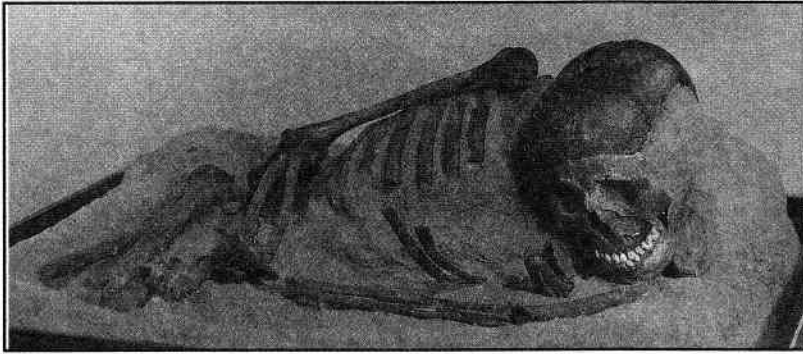


# 宇都宮・大谷寺洞穴遺跡

33年前に  
出土の人骨



ほぼ完全な形のものとしては、縄文時代で国内最古と判明した大谷寺洞穴遺跡の人骨(大谷寺宝物館で展示中)

# 1万1000年前と判明

「ほぼ完全」では縄文最古

宇都宮市大谷町の「大谷寺洞穴遺跡」で、三十三年前にほぼ完全な形で出土した人骨が、縄文時代最古の「草創期」にあたる約一万一千年前のものだったことが、二十八日まで、県教委が依頼した専門家の調査で分かった。出土した当時は、縄文時代早期の約七千年前のものと見られていた。ほぼ完全な形で出土した人骨としては、縄文時代で最も古いという。

人骨は二十歳前後の男性で、身長約百五十四センチのやせ形、奥行き約七センチの洞穴内の深さ約三センチの地層から、手足を折り曲げた「屈葬くつさう」の状態で見つかった。

発見当時は、近くから出土した土器類などの特徴から、約七千年前の縄文時代「早期」の人骨と考えられていた。ところが、今年四月に人骨の複製を作る際、初めて年代測定調査をお茶の水女子大生活科学部の松浦

秀治助教らに依頼したところ、早期よりさらに古い、約一万年前の「草創期」のものであることが判明した。測定は、有機物中の放射性炭素の放射エネルギーから年代を推定する「放射性炭素法」と骨の中のフッ素量で骨の古さを比較する「フッ素法」の二種類で行ったという。

県立博物館人文課によると、これまで沖縄県で、縄文時代以前の「旧石器時代」に

お茶の水女子大 松浦助教ら調査

から推測するしかなかった。旧石器から縄文時代にかけての人類の変化を知る手掛かりとなるのでは」と話し

# 読売新聞

THE YOMIURI SHIMBUN

5月29日 金曜日  
1998年(平成10年)

発行所  
読売新聞社  
東京都千代田区大手町1-7-1  
郵便番号 100-8055  
電話(03)3242-1111

第43858号 (日刊) ©読売新聞社1998年